
Ⅰ アイ

サーガン

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

I アイ

【Nコード】

N1916I

【作者名】

サーガン

【あらすじ】

自分とは何か。自分のすべきことは何なのか。

自分は何のために生まれてきたのか？

主人公である僕はもう一人の自分と向き合い真実を知る……

1st デアイ

「ここは……ここはどこなんだ……確か僕は天魔皇ヴィルディと戦っていてそれでヴィルディの放ったギャラクシーバーストに巻き込まれて……」

真つ暗闇の場所。そこで僕は目覚めた。

コツコツと足音が聞こえる。誰かが来た！！足音は僕に近づいてきた。そして声が聞こえる。

「君は僕で僕は君さ。わからない？簡単なことじゃないか。僕は君自身で君は僕自身なのさ。君と僕は同じ人物。同じ存在。同じ存在は同じ空間に存在してはいけない。つまり僕と君はここで殺しあわなければならぬ。生き残ったほうが正しい存在として生き続け負けたほうは歪んだ存在としてここで朽ち果てていくのさ。さあ剣を取れ。もう一人の僕！！」

そいつには色がなかった。ほんとにないのは色ではなく心だと思った。生きた人間の目をしていなかった。たぶん生きた人間ではないだろう。僕はそう考えた。

「正体を現せ！！」

僕はそいつに向かって叫んだ！！

「まだ分からないのかい？さっきから言ってるじゃないか。君は僕で僕は君、それ以上でもそれ以下でもない。さあ剣を取れ。」

ワカラナイ。こいつは何を言っているんだ。僕は僕。僕は一人しかない。

「黙れ！！偽者が！！」

「偽者？何を訳の分からないことを……」

「分かっているんだお前は僕じゃない。お前は僕の……」
そこまで言うと体から力が抜けた。

「だから言っているだろう僕は君だって……」

2nd キオク

気がつくとも赤く染まった場所にいた。血のような赤。

「この部屋を見て何か思い出さないかい？」

そいつは言った。

頭の中にたたくさんの風景が浮かぶ。帝国の將軍として罪のない民間人を何人も殺してきたこと、何人も仲間をこの手にかけてきたこと。

そうだこの赤色は僕が殺してきた人たちの血の色。ここは僕が殺した人たちの怨念が集まる場所。そう感じた。

「君は若くして帝国の將軍になりました。洗脳によって大魔王様に操られたとはいえ戦場で兵士を何人も、町で民間人を何人も、狂乱して仲間を何人も殺しました。それでも大魔王様は君を罰することはしなかった。そして君にはある異名がつけられた。

染血將軍

でもねそれをしたの君じゃないんだ。安心したまえ。」

「どういう意味だ！！」

「知りたいのなら教えてあげるよ。アレをしたのは僕さ。君の持っている記憶のほとんどは僕の記憶なのさ。君は記憶を改竄されたんだ。かわいそうに。罪は君がかぶってくれたから良かったけどね。」

「きさまっ！！」

そのあとのことは記憶に残っていない。気がつくとも最初にいた場所に戻っていた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1916i/>

I アイ

2010年10月16日07時17分発行